

(2) 年齢別の将来患者数推計

年齢別に将来の患者数を推計すると、年少人口（0～14歳人口）及び生産年齢人口（15～64歳人口）については、入院患者・外来患者ともに今後減少を続けると想定されている。また、前期高齢者人口（65～74歳人口）については、入院患者及び外来患者ともに平成27年まで増加し、その減少した後、平成47年に再び増加に転じると予想されている。後期高齢者人口（75歳以上人口）については、入院患者・外来患者ともに平成42年まで増加を続け、以降減少する見込みである。

ア 入院患者数

(単位：千人)

年齢	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)
総数	1,295.3	1,421.7	1,529.4	1,616.4	1,704.1	1,731.1	1,708.5
前推計年比増減率	—	(9.8%)	(7.6%)	(5.7%)	(5.4%)	(1.6%)	(-1.3%)
0～14	32.1	29.2	26.0	23.4	21.5	20.2	19.0
前推計年比増減率	—	(-8.8%)	(-11.1%)	(-10.0%)	(-8.0%)	(-5.9%)	(-5.9%)
15～64	429.1	418.5	386.5	372.1	367.6	362.6	343.4
前推計年比増減率	—	(-2.5%)	(-7.6%)	(-3.7%)	(-1.2%)	(-1.4%)	(-5.3%)
65～74	262.2	278.5	317.7	317.3	272.4	257.2	269.6
前推計年比増減率	—	(6.2%)	(14.1%)	(-0.1%)	(-14.1%)	(-5.6%)	(4.8%)
75～	571.9	695.5	799.2	903.6	1,042.5	1,091.1	1,076.4
前推計年比増減率	—	(21.6%)	(14.9%)	(13.1%)	(15.4%)	(4.7%)	(-1.3%)

イ 外来患者数

(単位：千人)

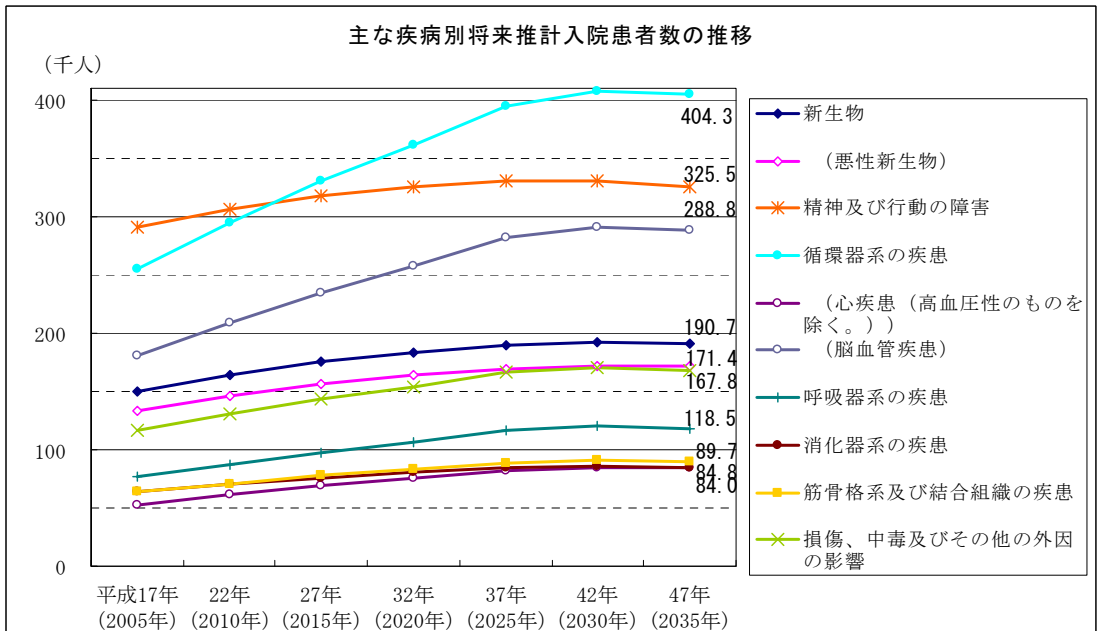
年齢	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)
総数	6,578.8	6,848.0	7,056.2	7,148.6	7,158.0	7,103.7	6,971.9
前推計年比増減率	—	(4.1%)	(3.0%)	(1.3%)	(0.1%)	(-0.8%)	(-1.9%)
0～14	708.7	656.6	588.6	526.8	480.6	450.0	423.9
前推計年比増減率	—	(-7.3%)	(-10.4%)	(-10.5%)	(-8.8%)	(-6.4%)	(-5.8%)
15～64	3,099.0	3,007.8	2,807.3	2,704.7	2,653.9	2,582.3	2,430.9
前推計年比増減率	—	(-2.9%)	(-6.7%)	(-3.7%)	(-1.9%)	(-2.7%)	(-5.9%)
65～74	1,383.5	1,487.1	1,696.7	1,679.6	1,436.1	1,368.9	1,454.4
前推計年比増減率	—	(7.5%)	(14.1%)	(-1.0%)	(-14.5%)	(-4.7%)	(6.2%)
75～	1,387.6	1,696.5	1,963.5	2,237.5	2,587.4	2,702.4	2,662.6
前推計年比増減率	—	(22.3%)	(15.7%)	(14.0%)	(15.6%)	(4.4%)	(-1.5%)

出典：厚生労働省「平成20年患者調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口（平成19年5月推計）」を基に推計。

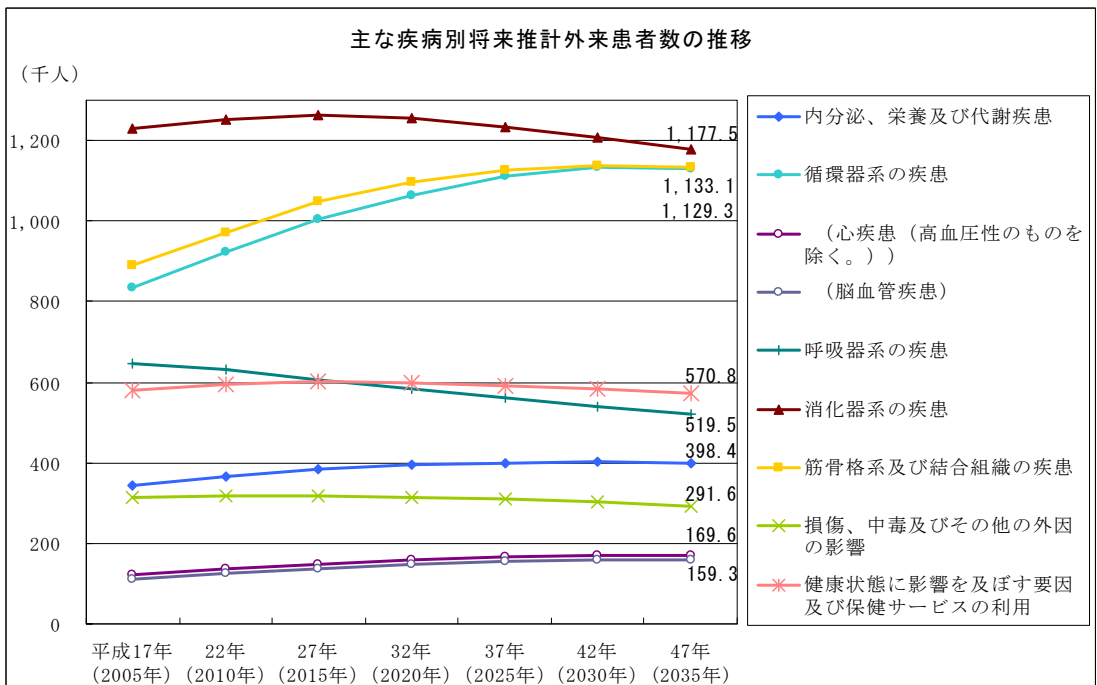
(3) 疾病別の将来患者数推計

疾病別に将来の患者数を推計すると、入院患者においては、すべてが平成42年まで増加し、以降減少する。外来患者においては、「呼吸器系の疾患」は平成17年以降、「消化器系の疾患」、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」及び「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」は平成27年以降それぞれ減少傾向にある。また、「内分泌、栄養及び代謝疾患」、「循環器系の疾患」及び「筋骨格系及び結合組織の疾患」は平成42年まで増加し、以降減少する見込みである。

ア 入院患者数



イ 外来患者数



出典：厚生労働省「平成20年患者調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口（平成19年5月推計）」より集計。